

SDGs 国連が2030年までに解決を目指す持続可能な開発目標。本稿に書かれた目標は「ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行う」。

NPO法人

「ウィメンズアイ」事務局長

栗林美知子さん



二〇一一年二月の

東日本大震災後、災

害ボランティアとして集まった有志で団体を立ち上げ、「女性が自らをいかし元気に活躍できる」を

ビジョンに活動しています。当初は東京から東北に通っていましたが、五年前に仕事を辞め、東北で暮らし始めました。

企業の助成金や二百人超の個人から寄付をいただき、共同利用できる小さなパン菓子工房を一年半前に宮城県南三陸町の里山につく

てその価値を地域内外に伝えたいと考えています。

工房ができて一年が過ぎたころ、農家の方が「パンを作るなら」と無農薬の麦づくりを申し出てくれました。ほかにも、果物や野菜、海産物を生産者の方から受け取ってパンにしています。パンを焼く女性たちがいることで、規模は小さくても地域のあらたな経

## 地域の恵みパンづくり

りました。現在、地域の女性たち十四人が利用しています。

創業にかかる初期投資や営業許可取得などのハードルを下げ、初めての人でも商品づくりと販売にチャレンジできるようにしています。地域の恵みをいかす、環境にやさしい、心とからだによいもの三つを大事にし、おいしさを通じ

済循環が生まれています。

地域には文化的な慣習があり、自分らしく生きるのには簡単ではありません。そこで、私たちは東北に暮らす女性たちに、自分で考え、自分で選択し、自分らしく生きる力（エンパワメント）を身につけてもらえるよう注力しています。すこやかな体づくり、ストレスのないコミュニケーション力をつける講座、小さなナリワイ塾などを実施。東北被災三県のリーダー育成研修の参加者を含めて延べ三百人以上の女性たちの小さなアクションの積み重ねが、おだやかに変化を起こしています。

自分らしくいる力をつけること、自分を肯定できることは、さまざまな活動の源となつて、未来の東北の担い手には欠かせないものだと感じます。



パン工房利用者向けのスキルアップ教室の様子 宮城県南三陸町で

※この連載は、NPO法人JKSKによる『結核プロジェクト』の協力を得ています